

ChatGPT Workで変わる知財実務の未来：司令塔としての汎用AI活用戦略

日本企業の知財部門がChatGPT Workを「業務のハブ」として導入し、生産性と法的安全性を両立させるための全体像を伝える。

知財実務の「ハブ」としてのChatGPT Work

単なるチャットから「業務エージェント」へ



複数ソースの
横断検索



Scheduled Tasks
による定期監視



ファイル生成

複数ソースの横断検索、Scheduled Tasksによる定期監視、ファイル生成までを一つの作業面で完結させます。

「人が全部書く」から「人が設計・判断する」仕事へ



AIが調べ、形にし、最終的な責任は人が取るという「オーケストレーション層」としての役割を担います。

法的境界線の遵守：非弁・非弁理士行為の回避



最終的な法的判断は依然として弁理士・弁護士の専権業務であり、AIはあくまで「判断の前段」を厚くする存在です。

専門ツールとの役割分担と導入効果

汎用AIと特化型ツールの棲み分け



LegalOn

契約審査



AI Samurai

特許調査



専門家（人）

広い横断整理はChatGPT、契約審査はLegalOn、特許調査はAI Samuraiといった「適材適所」の連携が不可欠です。

実務フロー：機密区分と専門家レビューの必須化



機密性判定



AIによる
一次整理



専門家の承認



証跡保存

最初に機密性を判定し、AIによる一次整理の後、必ず専門家の承認と証跡保存を行うプロセスを構築します。

業務工程ごとの工数削減の現実的な推定値

契約書レビュー

40%

75%

汎用レビューに強いが、厳密な自社ルール適用は専門SaaSが優位。

発明者支援

40%

70%

会議館からのノート化や、Scheduled Tasksによる更新が非常に得意。

特許出願・審査対応

20%

40%

一次資料の構造化には強いが、請求項の最終設計は人が行うべき領域。